

# ひょうごかぞくねっと

兵庫県知的障害者施設家族会連合会

第 57 号

## — 繋がり、支え合い —



わたくしたちの子供たちの今があるのは、先人による「子供の幸せを願う一途な思い」が歴史を作ってくれたからです。社会的な偏見や差別の中、なおかつ親族からも受け

入れてもらえない中での活動は、今の時代を振り返るとき鳥肌が立つ思いが想像できます。一人から始まり、一人増え、一人増えとつながる中で声を大にして「皆さんの子供さんと同じ人間や」の心の中の声が地域社会で広がり、国を動かす「ちから」となり、今の状況ができあがったと考えます。

通称「ひょうごかぞくねっと」の歴史についても、組織化にあたっては担当された方々の努力が多くの方々の「こころの通じ合い」と「子供たちの幸せ」を願って、組織化へと発展し今日を迎えていると思います。障がい者福祉の歴史においては、間違っているかもしれませんが、障がい当事者、親権者に「寄り添った」法整備、施策につなげたことはあるのでしょうか。関係当事者と支えてくれる支援者の休むことない取り組みで実現されたことのみではないかと思えます。

いまの障害福祉ができたのは、2003年(平成15年)4月に発足した「支援費制度」に始まります。その後、障害者自立支援法へとつながりますが、政情不安のなか、一度廃案になり、見直し後の制度へとつながっており、現在の障害者総合支援法へと流れになっています。制度の中身については複雑極まりないようですし、当事者主体、契約制度の導入とのフレーズですが、

一般社団法人 兵庫県知的障害者施設利用者互助会

理事長 岩本 四十二

とてもすべての当事者が理解できる内容ではありません。基本は、福祉予算についていかに効率よく、どのような法人でも参加できる仕組みを導入していることです。参加事業者にとっては、収益が見込まれる事業として紹介されています。収益を目標とする事業者はいったいどのような「当事者支援」をされるのでしょうか。もともとの予算規模が少ない中での事業で効率化を追求することは、利用者支援に課題を残しませんか。

通称「互助会」フルネームでは、一般社団法人 兵庫県知的障害者施設利用者互助会ですが、1987年(昭和62年)に設立されました。県下の施設利用者の互助組織の発足です。利用者の入院治療に際しての「付き添い介護」、「差額別途費用」、不幸にして亡くなった場合の「死亡保険金」の三種類です。開設以来、保険商品に変更はありません。10年前になるでしょうか。保険業の見直し時期に共済事業の廃止、保険業への移行指導があり、当互助会も存続の判断を迫られました。今は亡き発起人であり、当時の理事長 福田和臣さんの陳情、要望等国会議員への面着がある議員さんに届き、いまの組織として互助会は存続しています。開設当初は4,000人を超えていましたが、今は3,000人を少し超える会員組織です。人は寄り添って互いに支え合うのが人として最も大切なことではないでしょうか。「ひょうごかぞくねっと」と「互助会」の繋がり歴史に成り立っており、互いに支え合っている組織でしょう。全国組織へと繋がったわたくしたちの「会」を大切にしたい仲間でありたいと願うばかりです。

## 2023年度事業報告・決算報告/2024年度事業計画・会計予算

2024年度評議員会は、6月24日（月）10：30～12：00 神戸市立総合福祉センターで開催致しました。

今年度は来賓の方もご臨席いただき、すべての議題において承認されました。

ご出席いただいた皆様、誠にありがとうございました。また貴重なご意見をありがとうございました。

（ご来賓：神戸市、兵庫県社会福祉協議会、神戸市社会福祉協議会、兵庫県知的障害者施設協会、兵庫県手をつなぐ育成会、神戸新聞厚生事業団、兵庫県知的障害者施設利用者互助会、兵庫県重症心身障害児（者）を守る会）

## 議題

第1号議案 2023年度事業報告について

第2号議案 2023年度会計決算報告・監査報告について

第3号議案 役員の変更について

第4号議案 2024年度事業計画(案)について

第5号議案 2024年度会計予算(案)について



## 2023年度会計決算報告

2023.4.1～2024.3.31 (円)

## 1. 収入の部

会費(賛助会費含む)	4,127,000
寄付金・保険手数料	408,531
雑収入	4,639
負担金(全施連から給与手当他)	530,000
前年度繰越金	6,924,480
合計	11,994,650

## 2. 支出の部

会議費・旅費	293,216
印刷費	141,878
通信運搬費	285,137
研修費	796,730
事務消耗品費	434,001
減価償却費	56,987
負担・分担・渉外費	380,688
給与手当(全施連給与手当含む)	1,950,400
法定福利費・福利厚生費	348,144
雑費	1,650
新聞図書費	6,600
小計	4,695,431
特別活動積立金	3,000,000
次期繰越金	4,299,219
合計	11,994,650

## 2024年度会計予算

2024.4.1～2025.3.31 (円)

## 1. 収入の部

会費(賛助会費含む)	4,172,000
寄付金・保険手数料	360,000
雑収入	3,000
負担金(全施連から給与手当他)	1,230,000
前年度繰越金	7,299,219
合計	13,064,219

## 2. 支出の部

会議費・旅費	310,000
印刷費	120,000
通信運搬費	300,000
研修費	850,000
事務消耗品費	350,000
負担・分担・渉外費	428,000
給与手当(全施連給与手当含む)	2,750,000
法定福利費・福利厚生費	640,000
雑費	10,000
新聞図書費	6,600
小計	5,764,600
特別活動積立金	3,000,000
次期繰越金	4,299,619
合計	13,064,219

## ■2024 年度活動計画

### 1. 行政機関への陳情と意見交換

県知事・政党へ団体要望を提出していくと共に、行政・議員との意見交換に努めます。

#### A. 新型コロナウイルス感染拡大や災害における対応

5 類に移行したことにより施設における新型コロナウイルス感染への対応を模索し、感染防止対策を兵庫県知的障害者施設協会と協議・連携し、行政に要望していきます。また、東南海・南海地震に備え、福祉避難所の充実と通所等利用者家族が直接避難できる体制づくりを要望していきます。

#### B. 全施連の活動の取組み

全施連の活動に共感できる部分は積極的に取組みます。

### 2. 組織の強化

原点に立ち返り、組織の強化を図ります。

- ・近年、家族会員の高齢化による家族会解散を理由に退会が散見するようになりました。具体的に退会を撤回できる方法を模索し、会員数の減少を防ぎます。
- ・ひょうごかぞくねっとの活動についてわかる資料を作り、要覧と共に各施設家族会に配布し、説明します。
- ・各施設の家族会や家族の持つ困り事や問題点に丁寧に対応していき、かぞくねっとの存在感を訴えていきます。
- ・各施設家族会、各地区かぞくねっとの活動の様子を発信できるように活動します。
- ・組織の基盤強化のため、各地区の課題に取り組めます。
- ・グループホーム移行者家族が母体施設家族会から離脱することのないように訴えていきます。
- ・各地区かぞくねっとでグループホームの見学し、機関紙で情報共有を行います。

### 3. 活動力強化の研修会

研修を通して共通理解を深め、共に活動していきます。

- ・知的障害者施設の利用者の福祉の向上を図り、その豊かな生活と権利を護る研修会の開催
- ・親はもちろんの事、障がいをもつ子らの高齢化に対応するための制度や仕組みを考える研修会の開催
- ・兄弟姉妹を対象とした障害者制度を理解するための研修会等の開催
- ・交流会を開催し、各家族会の問題解決に取り組めます。

### 4. 友誼団体との連携強化

障害福祉の向上を願う知的障害者団体との連携を強めることが大切です。

≪具体案≫ ①福祉7団体の会の主催団体として積極的に取り組めます。②兵庫県知的障害者施設協会との意見交換、話し合いを行います。③手をつなぐ育成会をはじめ各種団体の活動に後援団体として協力します。

## ■各地区かぞくねっと活動計画

### 【阪神】

- 1 親亡き後の「終の住処」について
2. 成年後見制度について
3. 会員が減少する中で、今後どう活動していくべきか
4. 入所施設の医療をどうするのか？

理事会(年3回)・6月・9月・2月

### 【こうべ】

3年後こうべかぞくねっとパートⅡの行動計画に基づき地域1番の家族会連合会を目指します。連合会のこれからは、家族会だけの考え方から、神戸市・社協・施設(連盟)・友誼団体に一緒になって頂き障害児(者)の安心・安全を担保出来る様に努力します。具体的策として、パート1でチャレンジした HP 上にコミュニケーションの場(架け橋)を進化発展させます。更に 関係団体とコミュニケーションを図り関係強化に努めます。

#### 理事行動計画

- ・HP 年12回 ・会長会 年1回 ・理事会 年5回
- ・研修会 年1回 ・監査 年1回
- ・表敬訪問・新年挨拶 年1回 ・こころのアート展年1回
- ・神戸市自閉症協会総会 年1回
- ・HUG+展・ジョイフルコンサート 年1回
- ・新春神戸市福祉関係者意見交換会 年1回

### 【東・北播磨・淡路】

コロナウイルス感染症も落ち着いて来ています。ひょうごかぞくねっとは研修会の計画があります。地区かぞくねっとも会長会で研修内容を話し合いたいと思います。グループホーム施設見学の件も同様にと考えています。

理事会 3回、会長会 2回、地区かぞくねっと研修会

### 【西中播磨】

長期に渡った新型コロナウイルス禍、前年5月以降5類移行扱いと制限緩和され、やっと以前の日常を取り戻せる状況下にありますが、更なる今後の動向に(注視)しながら、希望をもって順応に前進対応して行きたい。

理事会・会長会 7月・9月・2月、ブロック研修会

### 【但馬・丹波】

会長、副会長が交代し、前任者の指導を仰ぎつつ、あらためて原点に戻り活動する。

・施設のあり方、家族会のあり方、事業計画など、現在の環境を踏まえて協議する。

・あくまで施設利用者の幸せを願い、おだやかに寄り添うことをめざす。

但馬・丹波かぞくねっと研修会(・11月初旬に実施予定)

・研修テーマ(仮)

「但丹かぞくねっと そのなりたちとこれから」

役員会等 5/25、8/31、10/5、11/30、1/25、3/29



## ■2024 年度役員

役 職	氏 名	施設名
会長	山口 英治	ななくさ新生園
副会長	吉岡 京子	つつじ園
副会長	寺澤 節子	尼崎武庫川園
副会長	野口 雄二	神戸光生園
副会長	木村 政照	いちよう園
副会長	大垣 則男	みつみ学苑
理 事	松端 信茂	県知協会長
理 事	高野 國昭	学識経験者
理 事	荻田 藍子	県社協部長
理 事	小山 京子	学識経験者
理事阪神	田中 佳子	リーグ・フルー
理事神戸	小野寺 良三	神戸明生園
理事神戸	千坂 喜勝	陽気会
理事神戸	出来 竝江	ワークセンターいわや
理事東北播磨	武市 君江	あかりの家
理事東北播磨	中右 厚子	希望の郷
理事西中播磨	上田 茂	赤穂精華園
理事西中播磨	松田 文一	アルーラ
理事西中播磨	中本 津知宏	協和学園
理事但馬丹波	新田 実	丹南精明園
監 事	岩本 四十二	姫路市立総合福祉通園センター
監 事	久保田 忠幸	あかりの家
顧 問	堺 執	三田谷治療教育院
顧 問	木村 三規子	なごみの里

## 〈退任〉

副会長・但馬・丹波かぞくねっと会長 三浦 雅春 様  
 理事（こうべかぞくねっと） 川村 幸子 様  
 理事（但馬・丹波かぞくねっと） 高林 恵子 様  
 理事（但馬・丹波かぞくねっと） 佐山 忠行 様  
 長きに渡り、ひょうごかぞくねっとにご尽力賜り、感謝申し上げます。



## ■2024 年度活動予定表

月	日	行事	内容	場所
7	1	第2回正副会長会	2024年度活動について	事務所
7	25	第2回理事会	2024年度活動について	福祉センター4F
7	29	兵庫県知的障害者施設協会 懇談会	コロナ明け後の施設と保護者の関係について	福祉センター4F
8	中旬	たより57号発行	表紙: 互助会 岩本理事長	
9	11	臨時理事会	交流会の進め方について	福祉センター4F
9	18	交流会	家族会の存続について	福祉センター4F
10	8	第3回正副会長会	中央研修会について	事務所
10	29	第3回理事会	中央研修会について	福祉センター
12	未定	中央研修会		福祉センター
1		第4回正副会長会		事務所
2		第4回理事会		福祉センター
3	下旬	たより58号発行	表紙: 山口会長	
		グループホーム見学	各地区かぞくねっとで計画	

## ■就任のご挨拶

## 副会長(但馬・丹波) 大垣 則男

はじめまして。但馬・丹波かぞくねっとから、副会長に就任しました大垣則男と申します。何卒よろしくご指導の程お願い申し上げます。組織活動には新参者でございます。素朴な家族の一人として、施設利用者が少しでもおだやかに過ごせるよう、寄り添っていきたくと存じます。人は優しく、強くなければ生きていけないと、どなたかがおっしゃいました。それでもいつの日か、優しいだけで生きていける、そんな世の到来を願っています。



## 理事(但馬・丹波) 新田 実

今年度より、ひょうごかぞくねっと理事と、但馬丹波かぞくねっと理事に任命されました。私は丹南精明園家族会の会長をして6年目になります。私が会長になってコロナが始まり、あまり行事などが出来なくて、歯痒い思いで務めております。かぞくねっとの皆様のおかげで、頑張りますので、宜しくお願いします。



## 理事(こうべ) 千坂 喜勝

今年度より、ひょうごかぞくねっとの理事を拝命致しました。私は、発達障害の長男が中学校を卒業以来、社会福祉法人陽気会にお世話になり、今日まで37年間大変意義ある生活をさせて頂きました。近年は、家族会である「おかば愛育会」会長として微力ながら務めております。特に、新型コロナウイルス禍までは、家族会が中心となってキャンプ（舎営）、ハイキング、魚釣り、芋堀、音楽会等を楽しみました。そして、これ等の行事を実施するに当たり、利用者・家族・職員の安全面が最大の課題であり、その点への気配りが良い結果を生みました。



これらの経験を基に、今後は「ひょうごかぞくねっと」の皆様のために頑張っていきたいと存じます。

〈編集後記〉この夏は、体温以上の猛暑が続き体力が衰えている中、又新型コロナウイルス感染症が5類に移行してからも、現在次々と変異株の新型コロナウイルス感染症が発症しています。誰もが歳を重ね、この暑さとコロナで外出を控えていて、行事参加者が減少しています。一人でも多くの方々の方々の活動の参加を望みます。(S. T)